

憲法大好き人間になりました

(3.12 近畿地協 2022 春闘学習会)

近畿地協では、3月12日、全労連専任オルグの長尾ゆりさんを講師に招き、リモート方式で春闘学習会を開催しました。

今回の学習会には、北海道、東京、静岡、愛知、福岡の仲間など21カ所から24人が参加しました。

学習会の冒頭、長い間、近畿地協で事務局を担って65歳で定年退職されてからも、奮闘いただいた金融ユニオンの伊藤宗孝さんが先月亡くなられたことに黙とうを捧げました。

主催者挨拶で岡野展子近畿地協議長は「組合が企業風土の改革、職場での気付きや思いやり、コミュニケーションの大切さを採り上げて交渉していくことの大切さ」を強調しました。

ロシアがウクライナに侵略を行い、罪もない市民の生活が次々に破壊されていく映像が、連日テレビ画面に映し出され、「平和の大切さ」を多くの人々が実感させられているタイミングでの学習会のテーマは「憲法生かして職場イキイキ」。

講演では、戦争を違法化し、主権を尊重するという戦後ルールを破壊するロシアの侵略は許されないとしたうえで、日本国憲法が「戦争」だけでなく、「武力の行使」「武力による威嚇」を永久に放棄しているにもかかわらず、自民党や維新の会が、国際法（ジュネーブ条約）にも違反するブーチン大統領の「核による威嚇」発言を利用して、アメリカとの「核共有」発言を繰り返していることに警鐘を鳴らしました。

憲法で保障されている、いのちを守る砦（医療・公衆衛生・福祉）を削り弱者を切り捨ててきた「新自由主義」の問題点を、コロナでの死者・重症患者が全国ワーストの大阪での問題を、コロナで入院できない間に症状が悪化し、死に至った自らの身内の事例をあげて説明されました。

また、ジェンダー平等を求める声が森喜朗・東京五輪前会長を辞任に追い込んだことなどをあげて、

声を上げることの大切さを訴えました。

そもそも憲法は普通の法律とは違って、守らなければならないのは「国民」ではなくて「国」のほうであるという「立憲主義」を忘れてはならないと解説。故・菅原文太さんが、沖縄の翁長知事への応援演説で「政治の役割は2つある。ひとつは国民を飢えさせないこと。もうひとつは、絶対に戦争をしないこと」と話したことを紹介しました。

「武器より命のために予算を」「軍事基地は国民の命を守らない」と、憲法9条が25条と一体なものであるのに、過去最高の6兆円を超える日本の軍事費や米軍基地からコロナ感染が拡大するなど、国民の命が軽視されてきている状況を説明し、日々の生活の中で「この事って憲法でどうなんやろ？」などと憲法を語り合うことの大切さが強調されました。

「僕は何度も死のうと思ったことがありました。でも憲法25条を勉強して生きていこうと思えました」という中学生からの憲法へのメッセージを紹介し、



日本は憲法で人間らしく生きていける権利を保障している希望の光であることを訴えられました。

憲法って素晴らしいものだったんだ

講演後に行われたフリー討論でも、「パワハラや低賃金で退職者が止まらず、人が育っていない。退職まで代行業者に頼むほど、職場へのかかわりを拒否している事例も生まれている」「憲法改定については漠然としかわかっていなかったが、具体的な条文や改憲の狙いを解説してもらってよく分かった」「憲法大好き人間になろうと思う」等々の意見が出されました。

3・10 大阪総行動

22 春闘の最大のヤマ場として取り組まれた3月10日の全国統一行動に、大阪ではみどうすじ総行動、財務省・金融庁包囲近畿大行動とも連帯して大阪総行動が取り組まれ、金融ユニオンからも2人が参加しました。

近畿財務局要請

3年続いてコロナ禍が収束しない中での取り組みとなった近畿財務局要請では、今年も人数制限が行われた中での1時間に及ぶ要請行動となりました。



金融労連からは、金融ユニオンの田畑書記長が、
①ゆうちょ銀行ATMによる硬貨入金手数料問題に象徴される際限なき手数料引き上げ競争の実態、
②過労死を容認する管理監督者の範囲の実態、
③4月から全事業所に義務化されるパワハラ防止問題、
④三井住友銀行で現在追及中の行員の自宅にまで押しかけてパソコンを調査するような人権侵害の実態、
⑤大阪でのカジノ誘致に対するメガバンク2行の巨額融資問題、
⑥好き嫌い人事と人事考課問題まで労使協議を代理人弁護士に丸投げする枚方信金のガバナンス欠如の実態、
⑦「努力義務」とされている70歳までの雇用確保などについて、具体的な実態を示して改善指導を求めました。

この日の要請に対する近畿財務局の回答交渉は、4月8日に予定されています。

御堂筋ランチタイムデモ

大阪では唯一、メインストリート御堂筋を逆行するという伝統ある「みどうすじ総行動」のランチタイムデモが行われました。

今年は、金融ユニオンの田畑書記長が大阪労連の代表等と一緒に先頭で「コロナ対策充実・いのち・



暮らし・平和を守ろう！ロシア政府は侵略戦争やめろ！」と書かれた横断幕を持って行進しました。

ところが、デモ出発前、「新風維新」と書かれた1台の宣伝カー（乗用車）がデモ隊を威嚇するかのように入れ、赤い旗をたくさん並べて、権利ばかり主張するな！昔のソ連と同じ」などと大声で喚き立てていました。労働組合攻撃を公然と行う「維新の会」の本質が、以前、私たちの集会やデモの時に必ず現れた右翼の街宣車と重なって見えました。

ありがとう！伊藤宗孝さん

2月8日に亡くなられた金融ユニオン伊藤宗孝さん（77歳）への追悼の言葉を旧・全信労近畿地協元議長の前田須美雄（旧・豊中信金）さんからいただきましたのでご紹介します。

伊藤君は、私と同じ年で、以前から心臓の大病を患っていましたが、ずっと持ちこたえていました。最近連絡がないなと思いながらも、元気で過ごしていると思ったのに。

伊藤君は1966年に大阪南信組（現・成協信組）で12人ほどが組合活動で解雇され、その撤回闘争で私は伊藤君を知りました。

関西運輸のトラック荷台を舞台に夜集会をしたのを覚えています。1971年に私が全信労近畿地協の役員になってから現在までずっとの付き合いでした。

平野信組と大阪南信組が合併する時、私が平野信組杭全支店で社前ビラを配りましたが、大阪南の職員と間違えられて始業前の朝礼に参加。ラジオ体操を伊藤君に代わってしたこと、明るい飲み方でよく議論したこと、職場で多くの人の信頼を受けていたことなど思い出は尽きません。またさみしくなりました。



京都府知事選に梶川候補の支援を決定

3月24日告示、4月10日投票で闘われる京都府知事選は、与野党相乗りで2期目をめざす西脇隆俊現知事（66歳）と民主府政の会から出馬表明した京都総評議長の梶川憲さん（62歳・写真右）との一騎打ちになる見込みです。

近畿地協では、毎年、大会などに駆けつけて私たちに激励してくれている梶川候補の支援を決定しました。大阪では維新の首長になってから、労働者・労働組合攻撃が強まり、コロナ対応でも大変な事態になっているだけに、府民の厳しい監視の目が求められています。

